

広域観光周遊ルート形成促進事業について

- ・平成27年4月10日観光庁が、魅力ある観光地域のネットワークを強化し、訪日外国人旅行者の周遊を促進するとともに、地域の活性化を図ることを目的として「広域観光周遊ルート」の公募を開始。
- ・各府県市等と連携し、申請に向けて取組を進め、平成27年5月21日(公募締切り日)に、各ブロックから管轄の運輸局に提出。
- ・平成27年6月中に全国で数ルートが認定される見込み。

ブロック [申請者]	ルートの名称 (副題)	本県の広域観光 拠点地区	本県広域観光拠点地区の主な観光資源
関西 [関西広域連合、 関西経済連合会、 関西地域振興財 団]	「美の伝説」 (日本の美に出会う 5つ の世界遺産と7つの絶 景)	彦根城と城下町 地区	彦根城、 <u>玄宮楽々園</u> 、彦根城博物館、夢京橋キャッスルロード
中部・昇龍道プ ロジェクト [中部広域観光推 進協議会]	「昇龍道」 (日本の「まんなか」探 訪)	(1)比叡山地区 (2)長浜・彦根・ 近江八幡地区 (3)甲賀地区	(1) <u>比叡山延暦寺</u> 、 <u>日吉太社</u> 、坂本の里坊群・門前町 (2)彦根城、近江八幡の商家、八幡掘、黒壁スクエア、長浜曳山 行事 (3)甲賀流忍術屋敷、甲賀の里忍術村、MIHO MUSEUM 陶芸 の森
北陸・グランド サークルプロ ジェクト [石川県]	「日本再発見ルート」 (まだ見ぬ日本の原風景 をめぐるルート)	(1)近江八幡地 区 (2)高島市新旭 地区	(1) <u>水郷めぐり</u> 、湖魚料理、 <u>沖島</u> の生活様式 (2) <u>針江生水の郷(かばた)</u>

※二重下線: 日本遺産「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」ストーリー構成文化財

○各ブロックの参加府県市

関西: 関西広域連合構成府県市(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市)、奈良県、福井県

中部: 滋賀県、愛知県、岐阜県、静岡県、三重県、石川県、富山県、福井県、長野県、名古屋市、静岡市、浜松市

北陸: 滋賀県、石川県、長野県、新潟県、富山県、岐阜県、福井県、埼玉県、群馬県

関西の広域周遊ルートの提案内容について (観光庁 広域観光周遊ルート形成促進事業)

1 ルートの名称

主題： 「美の伝説」

(英訳： THE FLOWER OF JAPAN, KANSAI)

副題： 「日本の美に出会う 5つの世界遺産と7つの絶景」

- ※ 5つの世界遺産 古都京都の文化財、古都奈良の文化財、姫路城
法隆寺地域の仏教建造物、紀伊山地の霊場と参詣道
- ※ 7つの絶景 天橋立、神戸夜景、鳥取砂丘、鳴門渦潮、三方五湖
彦根城、山陰海岸ジオパーク

2 コンセプト

古くから日本の都として、常に歴史の中心に位置した関西。1400年の悠久の時を超え、いにしへの歴史と文化・自然が織り成す魅力、非日常との出会い。5つの世界遺産をはじめ、信仰の文化の美意識を知る旅。まさに日本の真髄にふれる、それが「美の伝説」である。

【考え方】

関西は、古くから日本の都が置かれ、様々な歴史・文化や信仰が生まれた聖なる地であり、悠久の歴史・文化が存在することについて、国内で他の追随を許さない絶対的な地位にある。この特性を活かし、外国人観光客に5つの世界遺産をはじめとする歴史遺産や絶景を巡り、また、古代から現代に及ぶ時間軸を通して関西に来ないと体感できない日本の精神文化や美意識にふれていただくことができる。

あわせて関西には、外国人観光客に人気の高い和食や産地グルメ、ショッピング、温泉、和のしつらえなどのほか、花見や紅葉、地域の祭りや伝統行事など季節感あふれる観光資源が年間を通して豊富にあり、しかも、こうした多様な魅力が発達した交通網により1～2時間程度の移動範囲で体験できることも大きな特長。

主なターゲットは、訪日外国人旅行者数が急速に伸びており、関西への訪問客も多い東アジア、東南アジア市場及び比較的長期間滞在する欧米系のリピーター市場とする。日本の歴史・伝統文化体験等のコンテンツは、こうした外国人観光客の関心は高い。

3 ルート

別紙のとおり

【考え方】

ルートについては、外国人観光客の旅程や宿泊数のパターンを考慮し、「8の字のル

一トが分割して商品化しやすい」、「回り方にバリエーションがもてる」などの有識者・専門家の高い評価を踏まえ、8の字のルート（6泊7日）を基本に、関西の観光資源の層の厚さを活かし、北地域回り及び南地域回りのルート（5泊6日）、北陸新幹線金沢駅経由で関西を巡るルート（3泊4日）の4つの周遊のバリエーションを設定。

4 目標

26年度に策定した関西広域連合「関西観光・文化振興計画」、関西経済連合会「関西広域観光戦略」に同じ数値目標を掲げており、広域観光周遊ルートの形成による集客効果を関西全体に波及させ、目標の達成に効果的に活かしていく。

数値目標(目標年 2020年)

関西への訪日外国人訪問率	40%	(2013年	33.3%)
関西への訪日外国人旅行者数	800万人	(2013年	345万人)
関西での外国人延べ宿泊者数	2000万人	(2013年	793万人)
関西での訪日外国人旅行消費額	約1兆円	(2013年	4,700億円)

5 推進体制

(1) オール関西としての取組

構成：関西広域連合、奈良県、福井県、関西経済連合会、関西地域振興財団（事務局）
歴史街道推進協議会、日本旅行業協会関西支部、関西鉄道協会、JR西日本、
近畿バス団体協議会、新関西国際空港

(2) 計画策定においては有識者・専門家、外国人の意見を尊重

有識者・専門家

日本旅行業協会関西支部長（JTB西日本 代表取締役社長） 光山清秀 氏
大阪府立大学観光産業戦略研究所長 橋爪紳也 氏
大阪観光局長 溝畑 宏 氏
新関西国際空港(株) 代表取締役会長 福島伸一 氏

外国人

米国総領事館 ダーリン領事
フィリピン総領事館商務部マンラピッグ商務代表

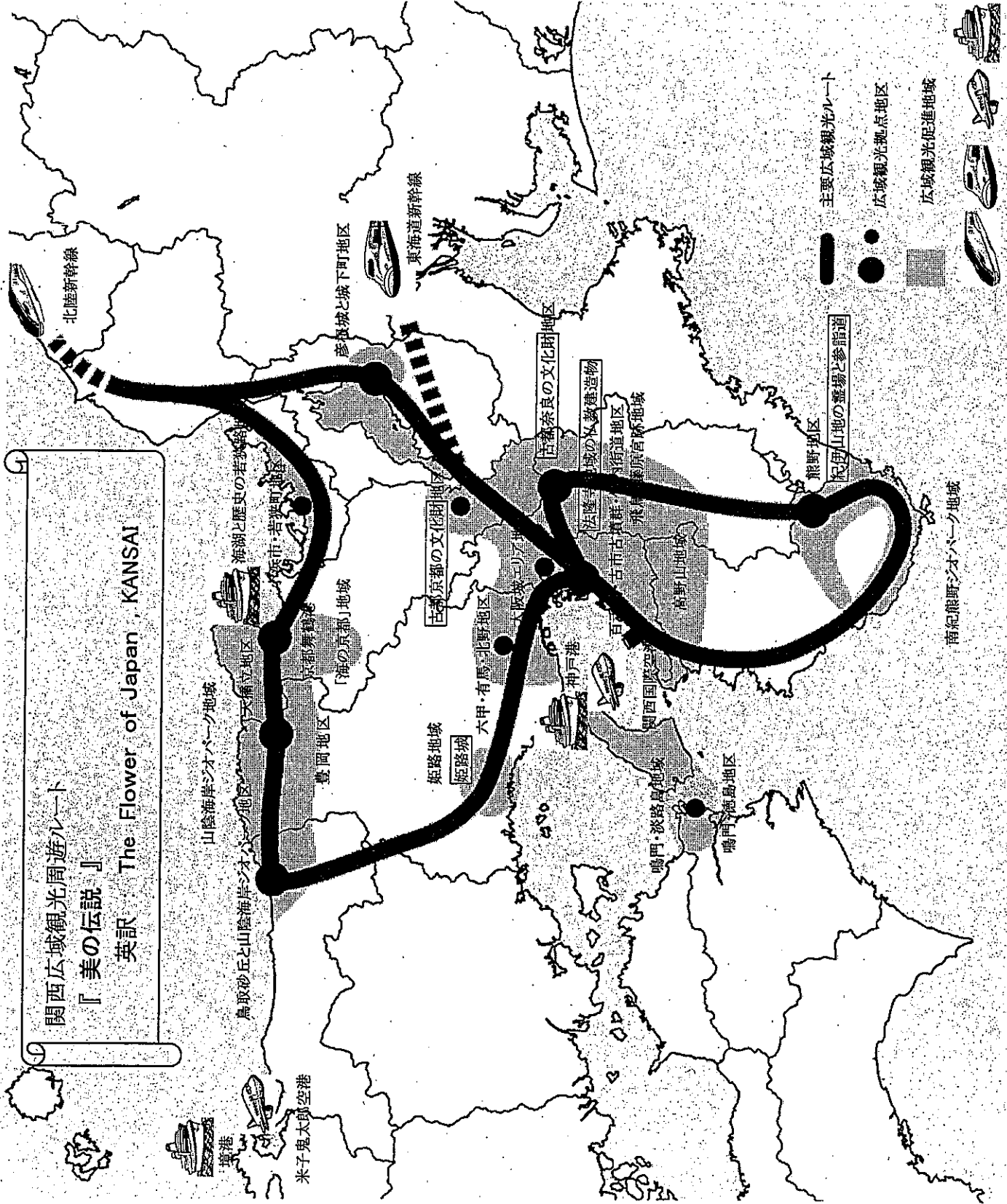
※計画が認定された場合、想定される広域的な取り組み

- 関西での訪日外国人旅行者の動向調査の実施
- 周遊ルートの広域観光案内ガイドブック、沿線マップ、ポスター等の作成、配布
- 関西域における交通事業者連携による統一交通パス導入の検討、実施
- 関西域における無料公衆無線LAN環境整備のための検討
- 海外現地旅行社とタイアップした関西デスティネーションキャンペーンの実施
- 2019年ラグビーW杯、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2021年関西ワールドマスターズゲームズと連携した観光PR事業の実施 など

関西広域観光周遊ルート

『美の伝説』

英訳 The Flower of Japan, KANSAI





- 主要広域観光ルート
- 広域観光拠点地区
- 広域観光促進地域
- ✈ 主要ゲートウェイ
- ✈ 世界遺産

広域観光周遊ルート形成計画

1. 広域観光周遊ルートに関する基本的事項

1. 名称・コンセプト

広域観光周遊ルートの名称
<p>主題：昇龍道 副題：日本の「まんなか」探訪 (英訳)主題：SHORYUDO (必要に応じて、Dragon-rise Region も併記する) 副題：Explore the heartland of Japan (ロゴマーク)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
広域観光周遊ルートのコンセプト
<p>○「龍」や「昇龍」は、中華圏、東南アジア及び韓国において、非常に力強く、めでたいという非常に良いイメージを有すること、多数の「昇龍伝説」^(※1)が存在することを踏まえ、能登半島を龍の頭に見立てて（ロゴマーク参照）、中部北陸9県を「昇龍道」と称する。</p> <p>(※1) 昇龍道の「昇龍伝説」 昇龍道は、中部北陸9県の形が龍の形に見立てられるだけではなく、龍にまつわる伝説・祭り、龍に擬せられる石・滝・木、龍をモチーフにした絵・彫刻・モニュメント等が多数存在することから、それらを組み合わせ、「昇龍伝説」をテーマとした広域観光（「昇龍伝説紀行(仮称)」）を提案していく。</p> <p>○昇龍道は、日本の「まんなか」に位置し、卓越した「山岳」^(※2)などの豊かな自然と、「サムライ」^(※3)により形成された歴史と文化の中から、「ものづくり」^(※4)を発展させてきており、これらをテーマとした広域観光を提案していく。</p> <p>(※2) 昇龍道の「山岳」 昇龍道には、富士山、白山、立山のほか、飛騨山脈(北アルプス)、木曾山脈(中央アルプス)、赤石山脈(南アルプス)といった卓越した山岳があり、日本百名山のうち44が所在し、また、山岳に関連する観光資源として、高原、名水、スキー場、古道、山間の温泉等が多数存在することから、それらを組み合わせ、「山岳」をテーマとした広域観光（「昇龍道山岳紀行(仮称)」）を提案していく。</p> <p>(※3) 昇龍道の「サムライ」 昇龍道は、戦国時代に、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康等の卓越した武将を輩出し、江戸時代にかけてサムライの歴史・文化を形成したが、そうした歴史・文化を今に伝える城(全国に4つある国宝天守閣のうち3つが昇龍道に所在)、城下町・宿場町などの歴史的な町並み、忍者等の観光資源が多数存在することから、それらを組み合わせ、「サムライ」をテーマとした広域観光（「昇龍道サムライ街道(仮称)」）を提案していく。</p>

(※4) 昇龍道の「ものづくり」

昇龍道は、自動車、航空機、窯業、伝統工芸をはじめ、日本のものづくりの拠点地域であり、関連する産業博物館、工場・工房見学、制作体験施設等の観光資源が多数存在することから、それらを組み合わせ、「ものづくり」をテーマとした広域観光(「昇龍道ものづくり街道(仮称)」)を提案していく。

また、この地域のものづくりのルーツの一つとされ、2016年にユネスコ無形文化遺産登録が予定される「山・鉾・屋台行事」(地域の人々が一体となり執り行う、山・鉾・屋台の巡行を中心とした祭礼行事。山・鉾・屋台は、木工・金工・漆・染織といった工芸技術により維持されている。)33行事のうち16行事が集中していることから、それらを中心とする日本の祭りや展示をめぐる広域観光(「昇龍道山車からくり街道(仮称)」)を提案していく。

さらに、昇龍道では、卓越した山岳などの豊かな自然がもたらす良質な水とお米を原料としてお酒をつくる酒蔵が多数存在していることを踏まえ、120の酒蔵や酒造組合等の参画を得て、酒蔵見学、試飲、酒器等を組み合わせた広域観光(「昇龍道日本銘酒街道」)を推進しているが、さらなる充実を図る。

- 昇龍道内の空港別の入国者数及び国際旅客便数^(※5)、昇龍道に宿泊する国別の外国人^(※6)、有識者・外国人のコメント等^(※7)を踏まえ、中華圏、東南アジア及び韓国を主なターゲットに、「昇龍道」という名称と「昇龍伝説」というテーマを、また、それらの3地域及び米国を主なターゲットに、「山岳」、「サムライ」及び「ものづくり」というテーマを設定する。

(※5) 別添1を参照。

(※6) 別添1を参照。

(※7) 別添2を参照。

- 昇龍道には、上記のテーマに沿った観光資源以外にも、日本らしい変化に富んだ多様な観光資源(自然・歴史・文化・産業・生活・食等)が分布しており、旅行会社や個人旅行者は、顧客や個人の嗜好等に応じて、上記のテーマに沿った観光資源とそれ以外の多様な観光資源を組み合わせ、広域的に周遊することができる。例えば、滞在日数が7日間の場合、別添3のような行程が考えられる。

- なお、昇龍道には、広域観光周遊ルートとするにふさわしい次のような特徴がある。

- ・ 昇龍道は、東京と京都・大阪の間に位置し、それらの都市と昇龍道の一部を組み合わせることも容易であるため、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の際に、訪日外国人旅行者の地方への分散の受け皿として適している。
- ・ 昇龍道は、太平洋側と日本海側を結ぶ南北の国土軸の形成に資する。

(英訳)

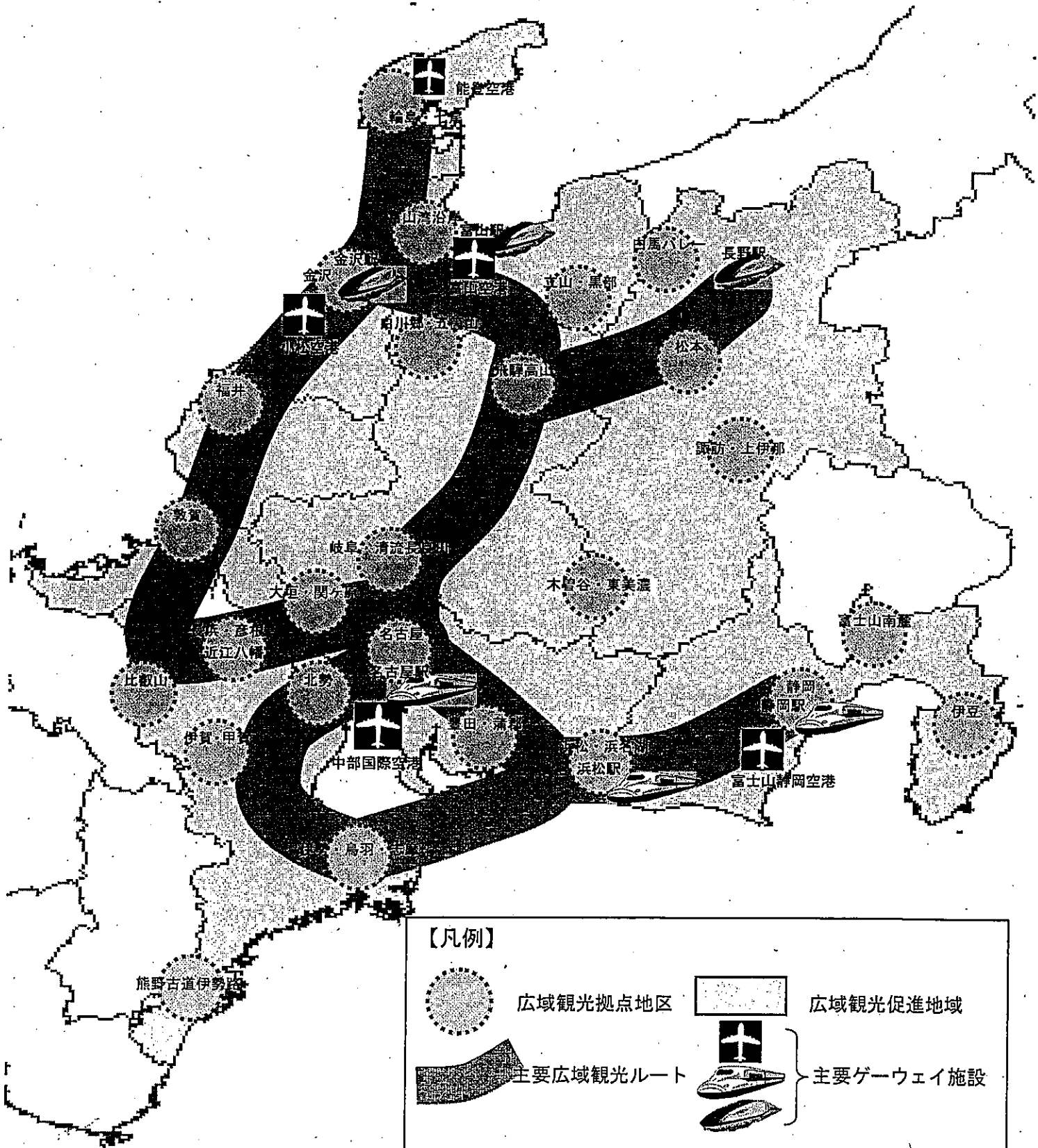
SHORYUDO is located in the heartland of Japan, between Tokyo and Kyoto/Osaka. The region's remarkable manufacturing has been developed in rich natural environment including outstanding mountains like the Japan Alps as well as in history and culture built up by samurai. Foreign travelers can enjoy many cool "manufacturing", "mountains" and "samurai" sites in SHORYUDO.

別紙

1. 対象地域の地図

「昇龍道」
SHORYUDO

～日本の「まんなか」探訪～
Explore the heartland of Japan



広域観光周遊ルート形成計画

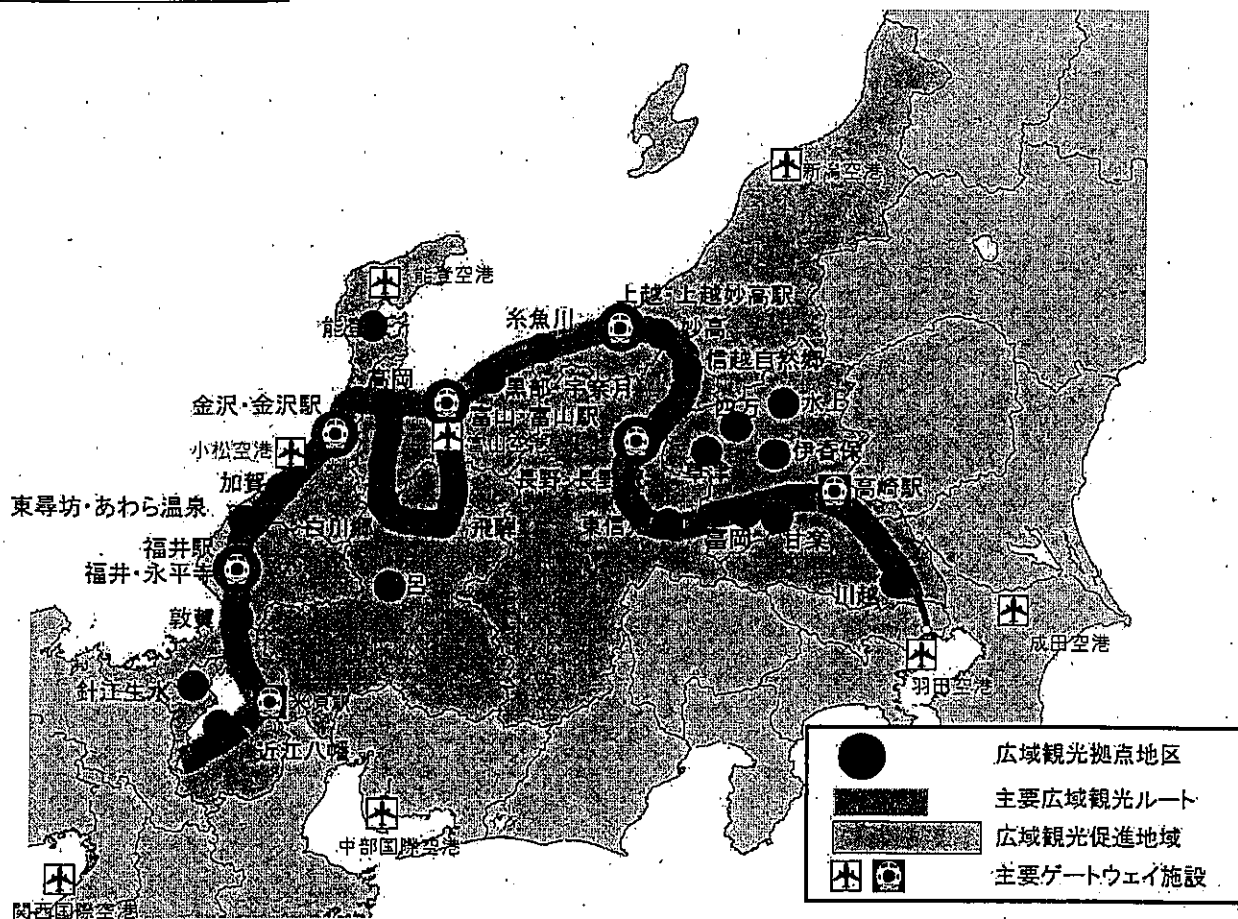
I. 広域観光周遊ルートに関する基本的事項

1. 名称・コンセプト

広域観光周遊ルートの名称
<p>主題:「日本再発見ルート」 (英訳)「Explore Japan Route」</p> <p>副題:『まだ見ぬ日本の原風景をめぐるルート』 (英訳)『The new undiscovered route through the heart of Japan』</p>
広域観光周遊ルートのコンセプト
<p>○コンセプト</p> <p>本州の中央を横断し、古くから北国街道として利用されてきたこのルートは、新たに開業した北陸新幹線を利用することで、サムライ文化に代表される歴史・文化遺産の数々、3000m級の山々が日本海に迫る急峻な地形、冬の深雪(みゆき)や日本海の荒波、日本アルプスの緑や紅葉などをはじめとする四季折々の自然美、これらの歴史、自然の影響を強く受けた伝統工芸の匠の技など、良き日本の原風景を満喫できる周遊観光ルートである。</p> <p>(英訳)</p> <p>This sightseeing tour in the centre of the main island of Japan makes use of the newly opened HOKURIKU SHINKANSEN and the old Hokkoku highway(HOKKOKU KAIDO). The route takes you to numerous historic and cultural heritages that derived from samurai culture; a landscape with 3000m of mountains that front the Japan Sea; scenery that changes with the seasons with the heavy snow, harsh waves, greens of the Japanese alps and crimson leaves of autumn; and traditional crafts inspired by the deep history and nature for you to marvel at. All of these elements combined brings you a tour of the glorious sights of the real Japan.</p> <p>○コンセプトの考え方</p> <p>伝統工芸・文化等は欧米の旅行者に人気があり、冬の雪景色をはじめとする四季折々の風景は東南アジアの旅行者に人気が高いため、北陸新幹線やJR北陸本線、高速バス等を利用し、便利に旅行を楽しめるルートとして主に欧米や東南アジアの個人旅行者向けに提案するもの。</p> <p>北陸・信越地域は、多様な観光資源(歴史・文化、自然、食、温泉、伝統工芸など)を有していることから、これまでもアジア、欧米問わず、多くの外国人旅行者を受入れてきたが、アクセスの問題から団体のバスツアーが中心となっていた。こうした中、今年3月の北陸新幹線金沢開業により、首都圏からのアクセスが劇的に改善され、個人旅行者も便利に楽しめるコースとなることから、従来から人気の高い、東京、京都、大阪だけではなく、北陸・信越地域の観光魅力を付加価値として加えた新たなルートとなるとともに、北陸と東海道の2つの新幹線を利用した本州一周ルートも可能となることから、外国人旅行者に新たな定番コースとして提案するものである。</p>

別紙

1. 対象地域の地図



広域観光周遊ルート形成促進事業 について

広域観光周遊ルート形成促進事業について

1. 事業目的

テーマ性・ストーリー性を持った魅力ある観光地域のネットワークを強化し、訪日外国人旅行者の滞在日数にあわせ広域観光周遊ルートの形成により訪日外国人旅行者の周遊を促進し、もって地域の活性化を図ることを目的とする。

2. 事業手続

地方公共団体、観光関係団体、民間事業者等からなる協議会等が策定する「広域観光周遊ルート形成計画」に対して国土交通大臣が認定を行うとともに、認定を受けた計画に基づき協議会等の構成員が実施する事業について、国が費用の一部を負担する。

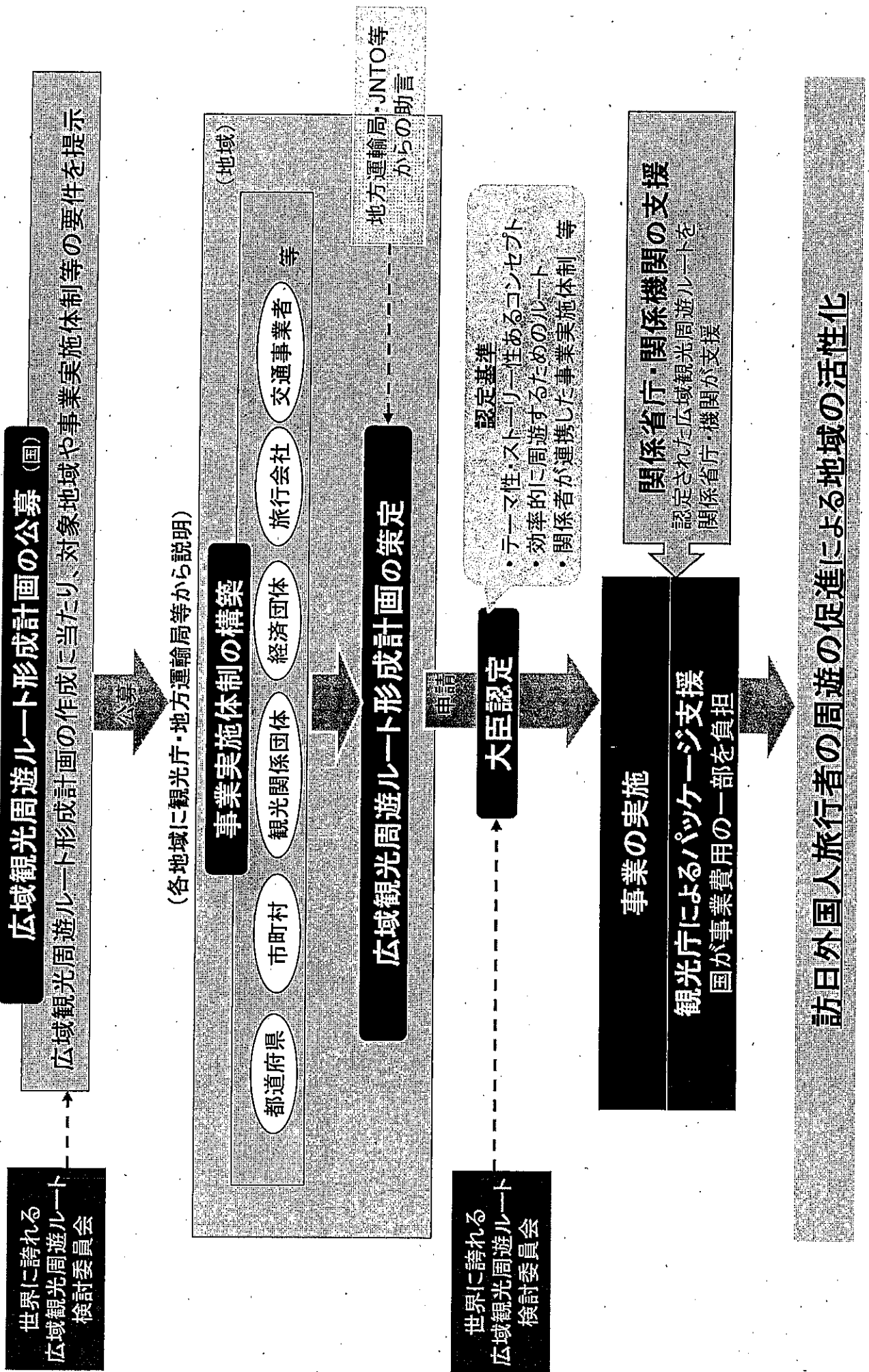
3. 予算

平成27年度予算額 304百万円
(平成26年度補正予算額 250百万円)

4. 今後のスケジュール(予定)

平成27年4月10日：広域観光周遊ルート形成計画の公募開始
平成27年5月21日：広域観光周遊ルート形成計画の公募締切り
平成27年6月頃：国土交通大臣認定
認定後速やかに事業実施

広域観光周遊ルート形成促進事業のスキーム

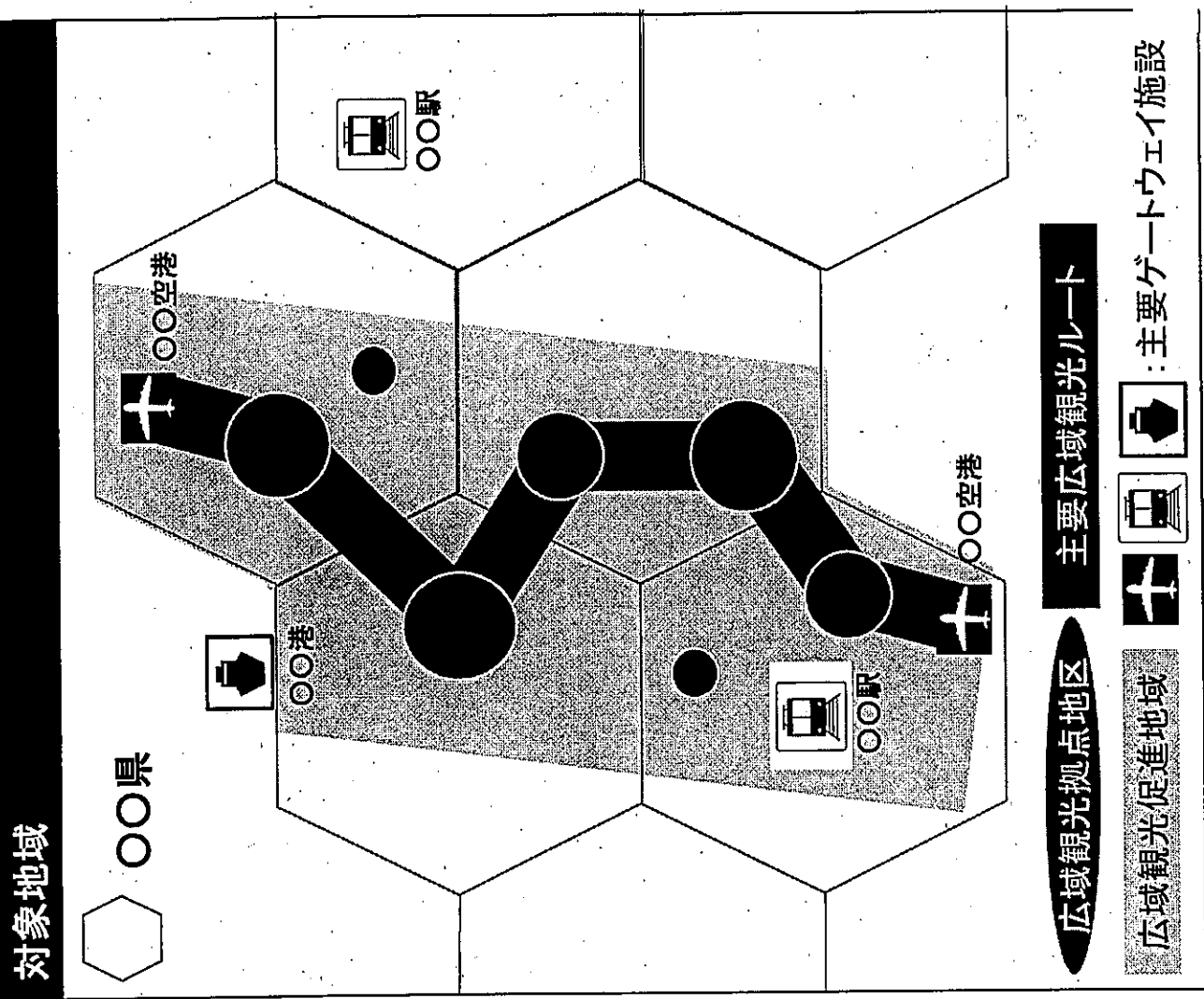


広域観光周遊ルート形成計画の記載事項

名称・コンセプト	ルートの名称 < 主題 (例: ○○ルート) 副題 (例: 日本固有の○○文化と○○自然を巡る○○ルート) > ・コンセプト ※英訳付
事業実施体制	・申請者 (例: ○○協議会) ・事務局 (連絡先) ・構成員 (地方公共団体、観光関係団体、民間事業者等)
目標設定・成果把握	・広域観光拠点地区における訪日外国人旅行者の来訪に関する現状及び課題 ・目標の設定 ・成果把握の方法
計画期間	○年(上限5年)
広域観光周遊ルート形成促進事業の概要	・広域で取り組む事業 ・広域観光拠点地区等で取り組む事業

【参考】

- ・広域観光周遊ルート形成促進事業と連携して実施する事業
- ・広域観光促進地域における主なツアーの例



広域観光周遊ルート形成促進事業のパッケージ支援メニュー(例)

国土交通省



観光庁

テーマ性・ストーリー性を有するルート名

主題: ○○ルート
副題: 日本固有の○○文化と○○自然を巡る○○ルート

ルート共通

- ・マーケティング調査
- ・計画策定のための専門家の招へい
- ・広域で利用できる無料公衆無線LAN環境の整備

- ・海外プロモーションの実施
- ・広域周遊ツアーの企画・販売
- ・企画乗車券の検討 等

A市 ゲートウェイのおもてなし強化

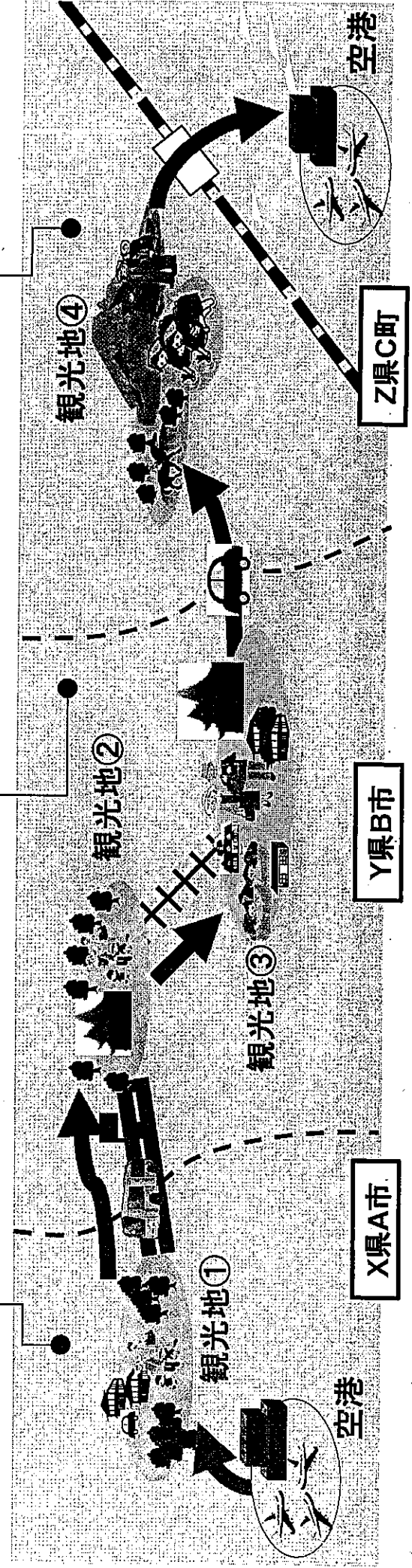
- ・空港における広域観光案内機能の強化
- ・道の駅における無料公衆無線LAN環境整備 等

B市 ○○伝統文化の体験

- ・文化施設における案内看板の設置
- ・多言語パンフレットの作成 等

C町 ○○自然環境の体験

- ・滞在プログラムの開発・提供
- ・バス停における情報提供の多言語化
- ・観光地におけるトイレの補修 等



広域観光周遊ルート形成計画策定に際しての留意点

